

令和6年度

運営に関する計画

最終評価



大阪市立加美東小学校

大阪市長 加美東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、数年前における極度の学力不振や荒れに伴う学級崩壊といった状況を、教職員一丸となって子どもたちの指導に当たり克服してきた。現在においては、学校の方針や対応姿勢を地域・保護者に理解いただきながら穏やかな学校運営がなされている。また、学校の研究方針を策定するにあたり、教科にとらわれるのではなく、広く子どもたちを学びに向かわせたいとの理念のもとに「知的好奇心を高める授業の探求」を研究テーマに定め、子どもたちの達成感や充実感を高める取り組みを推進してきた。結果として、全国学力学習状況調査において、国語と算数は全国平均同水準となっている。小学校学力経年調査では、どの学年も大阪市平均を超える数値を上げることができた。今後も本校の良き文化を伝承し、地域・保護者とも手を携え、「キラリと光る学校」を目指していきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

学校アンケートの「安全で安心できる学校」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校アンケートの「知的好奇心を高める授業や取り組みをすすめ、多様化する社会を生き抜く力を育成する」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校アンケートの「教育環境の充実」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を男女とも71.1%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]
- ・ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

☆各取り組み内容の達成状況 (A)B(C)

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- (B) 取組内容① 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】
- (B) 取組内容② 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】
- (B) 取組内容③ 【基本的な方向2、豊かな心の育成】

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- (B) 取組内容① 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- (C) 取組内容② 【基本的な方向5、健やかな体の育成】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- (B) 取組内容① 【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】
- (B) 取組内容② 【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

☆総括 (●成果 ▲課題 ◆次年度に向けて)

- (B)評価が6項目、(C)評価が1項目と概ね目標を達成している。
- 児童の登校状況を職員室で集約し、不登校ぎみの児童に対して学校全体で対応することができた。また、区役所と連携して対応することができた。
- 小学校学力経年調査の結果3年～6年(計18科目)で13科目大阪市平均を上回った。
- 「教員の働き方改革」については、本年度より「校時表」の見直し、業務内容の改善や多数ある行事の精選などをはかった結果、教員の時間外勤務時間が昨年度より減少した。
- ▲家庭環境(生活リズムの乱れ)は原因で欠席が続く児童、遅刻が多い児童、長期欠席が続いていた児童に対して区役所等関係諸機関と連携して登校状況の改善。
- ◆引き続き、起こりうる課題に対して「早期予防・早期発見・早期対応」を大切にし、大人同士の連携をより密にしていく。
- ◆引き続き、業務内容の改善や多数ある行事の精選などをはかり、効果的な教育課程を実施していく。

(様式2)

大阪市立加美東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>【R6年経年調査】</p> <p>3年:78.0%(大阪市平均84.6%) 4年:70.9%(大阪市平均84.6%) 5年:88.7%(大阪市平均81.1%) 6年:87.8%(大阪市平均77.1%)</p> <p>②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】互いを認め合い、より良い集団を目指す子どもを育てる。</p> <p>・いじめや不登校、問題行動、児童虐待に関して、保護者と地域、関係諸機関と連携し、未然防止及び早期発見に努める。発生事案については、個に応じた対応・解決へ向けて組織的に行う。児童理解の場を通じて教職員間で情報を共有し、指導の方向性を一致させて行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・アンケート調査で把握したいじめ事案について、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>・学校アンケート〔児童用〕「学校が楽しい」、〔保護者用〕「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目について、肯定的な回答割合を前年度(95%・96%)同等程度にする。</p> <p>【R6年(前期)児童アンケート】 93.7% 【R6年(前期)保護者アンケート】 97.4% 【R6年(後期)児童アンケート】 93.7% 【R6年(後期)保護者アンケート】 96.5%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】安全環境の実現</p> <p>・安全で安心して活動できるよう、施設の整備とともに、行事の精選や学校のルールを改善する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校アンケート〔保護者〕「学校は子どもの安全確保に努めている」の項目で、肯定的な回答割合を前年度(95%)同等程度にする。</p> <p>・学校管理下における災害の発生件数を、昨年度より減少させる。</p> <p>【R6年(前期)保護者アンケート】 97% 【R6年(後期)保護者アンケート】 94.6% 災害の発生件数…昨年9月時点(6件) 災害の発生件数…昨年1月時点(7件)</p>	B

今年 9 月時点 (8 件)	今年 1 月時点 (11 件)	
<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】人権教育の推進とキャリア教育の充実を図り、自己肯定感・自己有用感のある子どもを育てる。</p> <p>・人権教育の校内研修を年 1 回以上実施し、校外研修に年 2 回以上参加し、人権教育に基づき学級活動中心に集団育成を行い、一人ひとりが居場所のある学級をつくる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校アンケート（児童）「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で、年度初めと年度末を比較し、肯定的な回答割合を同等にさせる。</p> <p style="text-align: right;"> 【R5 年(後期)児童アンケート】(夢・目標) 91% 【R5 年(後期)児童アンケート】(役に立つ) 99% 【R5 年(後期)児童アンケート】(よいところ) 89% 【R6 年(前期)児童アンケート】(夢・目標) 89.7% 【R6 年(前期)児童アンケート】(役に立つ) 97% 【R6 年(前期)児童アンケート】(よいところ) 88.7% 【R6 年(後期)児童アンケート】(夢・目標) 89.1% 【R6 年(後期)児童アンケート】(役に立つ) 97.4% 【R6 年(後期)児童アンケート】(よいところ) 88.5% </p>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>年度目標</p> <p>①【進捗状況】最も肯定的な「思う」という回答は目標の 90%に達することはできなかった。しかし肯定的な回答の割合でみると、96.1%という結果となった。</p> <p>【結果と分析】「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」のアンケートで最も肯定的な回答は目標に達することはできなかったが、「自分は友達を大切にしている」という意識は全学年全員がもっており、「そう思う」と回答しているので、その気持ちをしっかりもたせ、今後も大切にさせていく。</p> <p>②【進捗状況】家庭環境でしんどい児童、遅刻が多い児童、長期欠席が続いていた児童はこれまでも数名いたが、本人の意思で休む（不登校ぎみの）児童が 3 名決まってきた。</p> <p>【結果と分析】兄弟関係の中でも登校できる児童と登校できない（行きたくない）児童が分かれてきた。親も学校へ行くよう促すことはできず、保護者への協力は難しい。区役所の子育て支援担当とつながり、家庭の状況を共有しているところだが、保護者と連絡が取れない状況も多いため、改善には至っていない。</p> <p>③【進捗状況】昨年度不登校として挙げていた児童に 2 人に関しては、卒業した。今年度は新たな 3 人が不登校傾向である。</p> <p>【結果と分析】不登校の対象者は変わったが、学校からのアプローチは続けている。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>①【進捗状況】児童アンケート「学校が楽しい」、保護者アンケート「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目については、目標を達成できた。</p> <p>【結果と分析】低学年に関しては、みんなあそびを取り入れたり先生と一緒に遊んだり、</p>		

<p>多くの先生とかかわったりすることで、学校生活が楽しく送れている一つの要因になっている。また高学年では、係活動の取り組みを活発に行っている。自分たちが考えた活動（劇、お笑い、クイズ等）を発表する時間を設けみんなで楽しんでいる。すべてにおいて、安心して学校生活が送れていることが楽しい学校につながっていると考える。</p> <p>②【進捗状況】保護者アンケート「学校は子どもの安全確保に努めている」の項目については、目標を達成できた。しかし、災害の発生件数については、去年度より減少させることができなかった。</p> <p>【結果と分析】学校の取り組みとして、緊急時における保護者への引き渡し訓練の実施や災害時の避難訓練の見直し、運動場のルールへの決めや体育備品の整理などを行い、児童が安全に過ごせるように環境の見直しをおこなった。</p> <p>③【進捗状況】児童アンケートの結果、自己肯定感に関する項目において、目標をおおむね達成している。</p> <p>【結果と分析】「将来の夢や目標を持っている」のアンケート結果は89.7%と前期より若干、数値は下がった。キャリア教育を充実させることで色々な経験をして自分の将来について深く考える児童が増えたと考える。「ひとの役に立つ人間になりたい」は高い結果を出すことができた。特別支援担当の集中実践を通じて、多様な生き方をする人々への理解が深まった。そのため、肯定的な回答の割合が高かった。「自分には良いところがある」の結果も肯定的な回答が多かった。人権週間で互いの良いところを見つけ合うことで、自分の良さを認められる児童が多かったと考える。</p>	<p>次年度への改善点</p>
<p>年度目標</p> <p>①今後もいじめについて考える週間の時期、そして道徳の授業や平和学習などの取り組みの中、または日々の生活の中でその都度いじめについての学習には取り組んでいき、一人一人が過ごしやすい環境に努めていく。</p> <p>②今後も登校できるようにクラス的环境に努め、1日でも多く登校できるよう促していく。学校からのアプローチはもちろん、行政にも頼りながら、学習の保障を目指していきたい。</p> <p>③引き続き取り組みを継続する。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>①各学年に応じた取り組み、学級に応じた取り組みを行うとともに、異学年交流や教職員との関係を深め、学校全体でみんなと関わる関係を今後もつくっていきたい。</p> <p>②災害発生件数の中には、授業での活動中や休み時間の運動場での遊びの中でけがが発生しているが、休み時間中の教室でのけがの発生件数も多いため、教室での安全な活動を児童に伝えていきたい。</p> <p>③来年度以降も取り組みを続けて、自己肯定感を育成していく。アンケートの文言を学年ごとに考え直し、内容をわかりやすく成長に合わせた問いに変えていく。</p>	

大阪市立加美東小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。</p> <p>【R6年経年調査】</p> <p>3年：48.0%（大阪市平均45.3%） 4年：38.2%（大阪市平均41.4%） 5年：48.4%（大阪市平均38.4%） 6年：42.9%（大阪市平均36.8%）</p> <p>②小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を男女とも71.1%以上にする。</p> <p>【R6年経年調査】</p> <p>3年：72.0%（大阪市平均73.5%） 4年：72.7%（大阪市平均70.8%） 5年：77.4%（大阪市平均67.7%） 6年：61.2%（大阪市平均63.4%）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】知的好奇心を高める授業や取り組みをすすめるとともに、国語力を向上させる。</p> <p>・学期に1度「漢字王」に取り組み、基礎学力の向上をはかる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・経年調査における国語科の平均正答率を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>【R6年経年調査】</p> <p>4年：64.1%（大阪市平均67.5%） 昨年度62.4%（大阪市平均64.4%） 5年：75.1%（大阪市平均70.4%） 昨年度71.1%（大阪市平均63.7%） 6年：67.5%（大阪市平均66.4%） 昨年度76.3%（大阪市平均69.7%）</p> <p>・学校アンケートの「自分の考えを表現することができていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。</p> <p>・学校アンケートの「本を見たり、読んだりすることが好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる</p> <p style="text-align: right;">【R5年(前期)児童アンケート】（自分の考え） 81% 【R5年(前期)児童アンケート】（読書） 83% 【R5年(後期)児童アンケート】（自分の考え） 77% 【R5年(後期)児童アンケート】（読書） 79%</p>	B

<p>【R6 年(前期)児童アンケート】(自分の考え) 78% 【R6 年(前期)児童アンケート】 (読書) 77.1% 【R6 年(後期)児童アンケート】(自分の考え) 80.3% 【R6 年(後期)児童アンケート】 (読書) 81.6%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】グループ活動を積極的に取り入れた体育科の授業展開を工夫し、友だちと一緒に活動する楽しさを味わわせ、運動に対する意欲を高める。自分の身体や健康に対する意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での体育や休み時間、全校児童参加のかけあし週間やなわとび週間や集会活動の中で、運動に対する意欲を向上させる。 ・学期に1回健康チェック週間を設定し、健康に対しての意識を向上させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「体を動かすこと（遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 ・健康チェック週間におけるアンケートの「昨日の夜は、早く寝ましたか」「今日は、早起きができましたか」「はなかち、ティッシュを持って来ていますか」「よい姿勢を心がけましたか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より増加させる。 <p>【R5 年(後期)児童アンケート】(体を動かす)91% 【R5 年(3 学期)児童アンケート】(早寝) 64% 【R5 年(3 学期)児童アンケート】(早起) 77% 【R5 年(3 学期)児童アンケート】(ハンカチ)74% 【R5 年(3 学期)児童アンケート】(姿勢) 77%</p> <p>【R6 年(前期)児童アンケート】(体を動かす)88.2% 【R6 年(1 学期)児童アンケート】(早寝) 68% 【R6 年(1 学期)児童アンケート】(早起) 80% 【R6 年(1 学期)児童アンケート】(ハンカチ) 72% 【R6 年(1 学期)児童アンケート】(姿勢) 81% 【R6 年(後期)児童アンケート】(体を動かす)89.5% 【R6 年(2 学期)児童アンケート】(早寝) 63% 【R6 年(2 学期)児童アンケート】(早起) 74% 【R6 年(2 学期)児童アンケート】(ハンカチ) 66% 【R6 年(2 学期)児童アンケート】(姿勢) 76%</p>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>年度目標</p> <p>①【進捗状況】全ての学年において、目標値の38%を上回っている。3年、5年においては、48%と大きく上回っている。</p> <p>【結果と分析】研究授業を中心に国語科以外の教科の学習でも学級の友達と話し合う活動を取り入れ、実践してきた結果と考える。</p> <p>②【進捗状況】学校全体での取り組み「かけあし週間」「なわとび週間」や学級で行う「みんな遊び」を行った。その結果、取り組みがきっかけで外に行く児童が増えた。</p> <p>【結果と分析】「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して、肯定的な割合71.1%を上回った学年は3,4,5年生。6年生に関しては、目標より10ポイント近く下回った。休み時間になると上の学年になるほど、外へ行く児童が減っている。</p>	

<p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>①【進捗状況】平野図書館の団体貸し出し、教室前廊下の本の整理、ビブリオバトル、読み聞かせなど本に親しむ環境づくりに努めた。学習時のグループ活動、朝の会でのスピーチなど自分の考えや意見を話したり、聞いたりする活動を積極的に取り入れた。その結果、低学年中心に図書室を活用する児童が増えている。また、自分の考えを話すことに慣れてきた児童もいる。</p> <p>【結果と分析】学校アンケートによると、どちらの項目も肯定的な意見が増加した。日々の積み重ねの成果が表れていると考える。しかし、読書に関しては個人差が大きく、読書に対して苦手意識のある児童は一定数いると思われるが、読書好きにするのはなかなか困難である。</p> <p>②【進捗状況】学校アンケート「体を動かすことは好きですか。」の項目では、肯定的な割合が増加した。「ハンカチ、ティッシュを持っていますか」の項目では、肯定的な割合が低下した。</p> <p>【結果と分析】体育の学習では、振り返りカードを用い、授業の最後に振り返りを行った。また、NHK for school で「できるポイント」を確認した。学級では、担任が運動場に出たり、外に出る機会を作ったりしてきた。健康チェック習慣では、学期に1回アンケートを行った振り返りカードを使うことで、自分のできるところ、できないところを知り、「次回は〇〇したい！」と学習の意欲につながっている。しかし、ハンカチやティッシュの持ち物に関しては、起きるのが遅く準備を忘れていたりすることがある。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>年度目標</p> <p>①さらに深い学びを生むための指導者の声かけの方法や、グループでの学習に消極的になりがちな児童への支援の仕方を模索していく。</p> <p>②振り返りカードを活用し、自分の学習を振り返られるようにする。また、NHK for school を取り入れるなど、スポーツや運動に対する意欲を高めていく。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>①平野図書館の団体貸し出しを他の学年にも広げ、さらに読書環境を整える。グループ学習やスピーチなど、児童が声を発する活動を継続して取り組む。</p> <p>②簡単に記入できる振り返りカードを用意すれば低学年でも記入できる。また、新しい単元が始まる前にNHK for school の動画を見せ、子どもの意欲を高めていく。</p>

大阪市立加美東小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標													達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】													
①授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]													
学習者用端末月間活用状況(児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数)													
	令和 6 年									令和 7 年			年間達成率
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
教育委員会が設定した授業日数	10	21	19	13	4	19	22	19	16				143
日別活用率が80%以上の日数	0	3	3	1	0	1	0	0	1				9
月間達成率	0.0%	14.3%	15.8%	7.7%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	6.3%				6.3%
②ゆとりの日の設定を月 2 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。													
③年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。													
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標													進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)】 日常的に子どもたちが ICT を主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高めるとともに、子どもたちの表現力や学びに対する主体性の向上につなげる。 ・1 人 1 台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。													
指標 ・学校アンケートの「学習でタブレット端末を進んで使うことができている」や「知りたいことをインターネットで調べることができますか」などの ICT 機器の活用に関するすべての項目で、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 <div>【R5 年(前期)児童アンケート】(進んで使う)85% 【R5 年(前期)児童アンケート】(調べる) 82% 【R5 年(後期)児童アンケート】(進んで使う)84% 【R5 年(後期)児童アンケート】(調べる) 79% 【R6 年(前期)児童アンケート】(進んで使う)86.9% 【R6 年(前期)児童アンケート】(調べる) 73.3% 【R6 年(後期)児童アンケート】(進んで使う)88.1% 【R6 年(後期)児童アンケート】(調べる) 83.5%</div>													
取組内容②【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方													B

改革を推進する。

- ・ゆとりの日(会議なし、18 時まで退勤)を月 2 回以上設定する。

指標

- ・時間外勤務時間が月 45 時間以上の教員の割合を 20%以下にする。
- ・教員の一人当たり平均時間外勤務時間を前年度より縮減する。

月 45 時間以上の時間外勤務の割合

4 月 : 36.67%	5 月 : 23.34%	6 月 23.33%
7 月 : 10%	8 月 : 0%	9 月 3.45%
10 月 : 17.24%	11 月 : 6.9%	12 月 0%

平均時間外勤務 (カッコ内は昨年度)

4 月 : 34 h 44m(37 h 13m)	5 月 : 30 h 38m(35 h 47m)
6 月 : 29 h 38m(34 h 33m)	7 月 : 23 h 17m(22 h 53m)
8 月 : 5 h 53m(7 h 06m)	9 月 : 23 h 39m(28 h 42m)
10 月 : 30 h 27m(27 h 59m)	11 月 : 27 h 41m(26 h 06m)
	12 月 : 18 h 53m(20 h 34m)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- ①【進捗状況】 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日のわずか 6.3%となっており、目標の 50%には遠く及ばない。
- 【結果と分析】 月毎の活用状況を見るに、80%ほどの日数では児童の 7 割以上が活用していることがわかる。現状として 2 年生以上では毎日こころの天気を入力するよう声かけをしていたり授業等で活用をしたりしているため、1 年生での活用方法がボトルネックとなっていることがわかった。原因としては端末の保管や充電において手間や時間がかかることが原因であるとわかった。
- ②【進捗状況】 ゆとりの日を月 2 回設定しているが、会議や研修等が入ることもある。また、学校閉庁日は夏季休業中に 5 日、冬季休業中に 3 日設定することができた。
- 【結果と分析】 今年度より、校時表の変更を行い、下校時刻を 15 分早めた。また全学年が 5 限で終了する月曜日に会議を設定し、会議終了後にゆとりを持って働けるようにした。
- ③【進捗状況】 2 月 3 日現在、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合が 93%であった。
- 【結果と分析】 今年度末までにすべての教職員が年次有給休暇を 10 日以上取得できる予定である。

年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標

- ①【進捗状況】 高学年では意味調べやデジタル教材の活用、ポスターや PowerPoint づくり、文書作成など様々な場面で端末を利用している。中学年では図工の題材を調べたり、デジタルドリルに取り組んだり、タイピング練習を行ったりといった利用の仕方をしている。低学年はまだローマ字の学習を行っていないこともあり、写真撮影やこころの天気などの利用が主である。

<p>【結果と分析】学校アンケートによると、どちらの項目も肯定的な意見が増加した。しかし、「知りたいことをインターネットで調べることができる」の項目については1年生では肯定的な意見が50%ほどになっている。低学年ではインターネットで情報を集めることは困難であると考え。また、中学年でどれだけ端末に触れるかによって高学年での活用の幅に関係してくることがわかった。</p> <p>②【進捗状況】4月と比較して時間外勤務時間が月45時間以上の教員の割合が減少していき、7月より20%を下回っている。</p> <p>【結果と分析】年間で学校閉庁日を8日設定されており、ゆとりの日も月に2日設定されている。休みを取りやすくなり、早く帰ろうという意識も生まれてきている。しかし、ゆとりの日を設定しているものの、ゆとりの日に会議や行事が設定されていたり、定時に帰れていない教職員もみられたりするため、業務内容の改善や多数ある行事の精選などをはかり、教職員の労働環境の改善に引き続き取り組んでいく必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>
<p>年度目標</p> <p>①2年生以上では継続してこころの天気の入力を中心とし、授業等で活用していく。1年生については毎回は充電器に接続する必要があるため、毎日のルーティンが確立されれば活用日数の割合は上昇すると考えられる。</p> <p>②ゆとりの日を月2日実施に向けて、引き続き業務内容の改善や多数ある行事の精選が必要。</p> <p>③今後も継続して職場環境の改善に取り組んでいく。</p> <p>年度目標の達成に向けた取り組み内容、進捗状況を測る指標</p> <p>①学校アンケートの項目は低学年において再考する必要がある。また、端末や充電器の持ち帰りや保管について改めて学校としてのルールを学年や発達段階に準じて定める必要がある。こころの天気については継続して声掛けを行い毎日取り組むことができるようにする。</p> <p>②今後も継続して職場環境の改善に取り組んでいく。</p>